

第4回 インダストリアル・グローバルユニオン世界大会概要



会長を中心に副会長6名、書記長、書記次長3名が並ぶ大会演壇

スローガンは「組織化で公正な未来を」 Organizing for a Just Future

アジア太平洋地域で初となる第4回 インダストリアル・グローバルユニオン世界大会が、2025年11月4日から7日にかけて、オーストラリア・シドニーの国際会議場 ICC シ

ドニーにおいて開催された。前回大会は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により全面オンラインでの開催となったが、世界各国を繋いだオンライン会議では時間の制約もあり、議論を十分に行うことが出来なかったため、2023年6月に南アフリカ・ケープタウンで中間政策会議を開催し、政治的な議論の補強を行い、第4回世界大会で採択するアクション・プランに関する議論を実質的にスタートさせた。

今大会は対面形式での開催が実現し、世界約100カ国から235の加盟組織、1000名を超える参加者が集結した。

現在、世界各地で紛争が頻発しており、イスラエル・パレスチナ情勢の泥沼化、世界的なインフレ、格差拡大、AIの進展による雇用への影響、政治の右傾化、米国のトランプ政権下の関税引き上げ問題、また多くの国で民主主義・基本的人権が失われている等、労働組合にとってかつてない厳しい状況の中で世界大会は開催された。大会は労働者の諸権利を守る

ため我々がとるべき行動について議論し、連帯の必要性を再確認した。大会のスローガンは「Organizing for a Just Future(組織化で公正な未来を)」であり、労働者の権利と尊厳を守るために、より広範で強固な組織化を推進し、国際的な連帯の強化を図ることが掲げられた。顔を合わせて議論する機会は、各国の労働運動にとって極めて意義深いものであった。シドニーでは世界大会前後に左記

諸会議等も開催された。(表1)

青年大会／女性大会

■青年大会

青年大会では、約60名の青年代議員参加のもと、青年の組織化と活動強化に向けた各国の経験や課題を共有。世界の若年層の約2割が教育・就労・訓練から排除されている厳しい実態が示され、青年を「勧誘」「組織化」「動員」へどう関与させるかが議論の焦点となった。SNSを活用した青年自身による動員の成功例も報告され、責任ある役割付与の重要性が示された。JCMからは、3名の青年代表が参加し、国内での青年の組合活動への参画低迷に対する課題意識と、国際労働研修などを通じた連帯構築の取り組みを紹介した。青年参画比率30%などの数値目標は第一歩にすぎず、各組織の実情に即した着実な実施体制づくりが求められるとの共通認識が形成された。「青年は未来ではなく現在」とのメッセージのもと、世界大会での発信へと議論が結実した。

表1

11月2日	青年大会
11月3日	女性大会
11月4日	執行委員会／決議委員会／アジア太平洋地域大会 JCM代表団結団式 大会開会式 インダストリアル日本加盟組織協議会主催 日本代表団夕食会
11月5～7日	世界大会
11月6日	オーストラリア・ニュージーランド加盟組織主催 歓迎夕食会
11月7日	執行委員会

■女性大会

世界女性大会には、世界各地から約350名の女性代議員が参加した。JCMからは19名の女性が参加。JCMの代表団全体では女性比率がインダストリアル規約で定められた40%を大きく超え50%に達した。アトレ書記長は開会にあたり「平等な参画なくして公正な未来なし」と力強く挨拶した。

女性大会は二部構成で開催され、第一部は9月に2日間にわたりWeb開催された。第一部では、この4年間の活動、GBVH・女性蔑視および性差別に関する方針、メンタリングプロ

グラム、参加型ジェンダー監査等を振り返った。

シドニーの女性大会(第二部)では今後どのようにインダストリアル活動でジェンダーを主流化していくか、女性副会長によるパネルディスカッション等を通じて議論を深め、数値目標の議論を超え、具体的実施と評価の段階へ踏み出す重要な契機となった。

JCM代表団結団式／地域大会

世界大会が開催された国際会議場でJCM代表団は11月4日に結団式

を開催した。団員の確認、世界大会の主要議論ポイントなど大会直前の情報を共有した。

また同日開催されたアジア太平洋地域大会では、地域選出の執行委員・代理委員、共同議長、副会長の確認が行われた。JCMの金子晃浩議長は、執行委員・アジア太平洋地域共同議長・副会長に選出され、市川千代電機連合主査は、執行委員代理に選出された。

大会開会式

アジア地域で初の開催となった世界大会は、オーストラリアとニュージーランドの加盟組織がホストとなり、開会式・歓迎夕食会などの催しを主催した。開会式ではオーストラリアの伝統的な儀式である「ウエルカム・トゥー・カントリー」が行われ、昔から大会開催地を所有してきた部族を称え、過去と現在の長老たちに敬意を表したあと、アポリジニによる素晴らしい伝統的な歌と踊りが披露された。またニュージーランドのマオリ文化も紹介された。

開会式では、インダストリアルマリー・ニルソン会長、オーストラリア労働組合協議会のミシエル・オニール会長、ホスト労組を代表してオーストラリアのトニー・マヘ工



上：インダストリアル青年大会集合写真
下：女性大会集合写真



マオリの伝統舞踊(ハカ)



今世界大会で会長職を退任したマリー・ニルソン前会長(左)

業・エネルギー労組会長、またオーストラリアのアンソニー・アルバニージー首相が歓迎挨拶を行った。金子晃浩JCM議長はアジア太平洋地域を

代表するインダストリアル副会長として登壇し、挨拶を行った。↓金子議長挨拶概要は20ページ

大会参加者には、クイーンズランドの炭鉱労働者でアーティストのクリス・ドッドが制作した「Connection」という作品を描いたシャツが配られた。すべての大会参加者への贈り物である「Connection」は、世代間、地域社会間、文化間の関連を象徴している。

大会運営の特徴

今大会では、4日間にわたって全体会議が行われ、議題は15項目におよんだ。議事進行は、インダストリアル規約およびスタンディング・オーダー（議事規則）に基づき厳格に運営され、代議員による発言機会の平等性や、効率的な議事進行が図られた。

加盟組織の参加代表団の構成については、女性比率40%が規約で義務として規定されているが、未達の場合には発言権が制限される議事規則が新たに適用された。実際に、ベルギーやシンガポールなど一部の代表団は規定を満たせず、大会での発言権が停止された。こうした措置は、組織内のジェンダー平等の徹底を図る姿勢を象徴するものであった。

また、2021年大会から導入さ

第4回インダストリアル世界大会 主な規約改正

加盟費関連
<p>第8条—加盟費（抜粋） 執行委員会は、加盟組織からの要請および会計監査委員の勧告により、ある暦年にスイス・フランに対する通貨為替レートが10%を超えて下落した国の加盟組織について、加盟費を一時的に減額することができる。執行委員会は、この趣旨の具体的なガイドラインを策定する。</p>
女性参画関連
<p>第3条—手段（抜粋） インダストリアル世界・部門・地域機関のあらゆるレベルにおける女性の平等な権利と参画推進に向けた取り組みの一環として、40%の女性参加・参画目標を維持する。この目標は、インダストリアル活動のすべての側面でも考慮に入れる。</p> <p>第13条—大会の任務（抜粋） (e) インダストリアル・グローバルユニオンは、会長、副会長、書記長および書記次長を含むグループとしての選出指導部において、ジェンダー多様性および包括性を促進することを約束する。選出指導部は、公正かつ包括的なジェンダーバランスを反映し続け、選出指導部の女性比率40%以上の達成に向けた進展が維持されるようにするものとする。</p>
青年参画関連
<p>第3条—手段（抜粋） インダストリアル意思決定機関の全レベルおよびすべてのインダストリアル国内活動、地域活動およびグローバル活動で労働力の多様性と包摂の拡大を目指す進行中の活動の一環として、若者参画・参加30%を目標にする。この目標は、予算およびプログラムの立案の際にも考慮し、部門別活動、訓練および組合構築活動の主眼に組み入れる。</p> <p>第11条—大会への参加（抜粋） すべての加盟組織が、代表団に35歳以下のメンバーを含めるようにすべきである。代表団の代議員4人に1人は35歳以下であるべきである。</p> <p>第16条—執行委員会のメンバー（抜粋） (e) グローバル青年委員会の代表2人（男女各1人）、発言権はあるが投票権はない。</p> <p>第21条—グローバル青年委員会（新設） グローバル青年委員会は、インダストリアル・グローバルユニオンの常設委員会である。グローバル青年委員会は、各地域2人の代表で構成され、その構成にジェンダーバランスを反映させる。グローバル青年委員会への指名は、地域青年機構が行うものとする。グローバル青年委員会は、2人（男女各1人）の共同議長および1人の書記を選出する。グローバル青年委員会は、2年に1回対面で、および少なくとも年に1回はリモートで会合を開くものとする。</p>

れた電子投票システムが今大会でも継続使用され、規約改正案への投票・集計の透明性と迅速化が実現された。議題としては、書記局報告、財政報告、規約改正案の審議、役員選挙、アクション・プランの採択、決議などが順次審議された。

規約改正

今大会では、インダストリアル

ガバナンスや民主性の強化、多様性の実現に向けて、複数の重要な規約改正が採択された。女性の参画の徹底が図られ、各加盟組織に対して、制度的に女性参画を担保する責任が再確認され、組織全体としてのジェンダー平等の推進が強化された。

また、青年（35歳以下）の参加比率30%という努力目標が規約に新たに規定されたことも特徴の1つである。

活動においてその実現を目指す方針が明文化された。さらに、グローバル青年委員会の設置、青年委員会代表2名（男女1名ずつ）へのグローバル執行委員会における発言権付与（投票権はなし）など、若年層の意見を反映させる仕組みも整備された。

JCMが加盟費に関して提案した新規規約である通貨下落時における一時的な加盟費減額措置（10%以上



マリー会長（手前）からベナー会長へ

の為替変動）が新たに導入され、経済情勢の急変に対する柔軟な対応が可能となった。その他、包摂性の高い運営を志向した改正が多数承認された。

こうした規約改正に対し、JCMは、現場の実情を踏まえた柔軟な制度運用の必要性を提起しつつ、男女共同参画と若年層の組合運動への参加促進を支持する立場を表明した。また、為替変動への対応策に対しても、加盟組織の持続可能な運営を支える観点から意見を述べた。

さらに、規約審議とは別に、書記局報告に対する討議においてもJCMとして登壇し、人権デュー・デリジエンス（人権DD）の法制化の重要性、および対企業キャンペーンに

際しての本国組織との連携強化を訴えた。

役員選挙

大会では、今後4年間のインダストリアルを担う新たな執行体制が選出された。会長には、ドイツ・IGメタルのクリスティアーネ・ベナー氏が選出され、前任のマリー・ニルソン会長（スウェーデン・IFメタル）に引き続き女性が会長に選出ということとで注目を集めた。書記長には、ノルウェーのアトレ・ホイエ氏が引き続き選出された。

書記次長には、松崎寛氏（日本・JCM）、ケマル・ウズカン氏（トルコ）、クリスティン・オリビエ氏（南ア）の3名が再選された。地域を代表する副会長ポストについては、各地域から代表者が選出され、JCMの金子議長がアジア太平洋地域代表の副会長として引き続き任に就いた。

そのほか、中南米、北米、欧州、中東・北アフリカ、サハラ以南アフリカの各地域でも、地域的バランスと多様性を重視した副会長陣が選出された。グローバル執行委員会の委員も、性別・地域の多様性を尊重した構成となり、包摂的な組織運営を志向する体制が整えられた。

2025-2029年アクション・プランと決議採択

世界を取り巻く環境が不安定さを増す中、今大会では、今後4年間の活動の方向性を示すアクション・プラン（2025～2029年）が満場一致で採択された。新アクション・プランは、①「平等と労働者の権利を求め闘い」、②「労働組合の力の構築」、③「資本への責任賦課」、④「公正な移行を通じた未来の形成」の4本柱で構成されている。

とりわけ、すべての労働者の権利と尊厳を守るために、草の根レベルでの組織化の強化、労働者代表の保護と支援体制の構築等が重視された。また、ジェンダー平等の推進では、女性40%参画の原則強化により、国・地域レベルでの運用徹底が求められている。

多国籍企業への対応では、グローバルな労働者ネットワークの強化と連携行動の拡充が掲げられ、企業の責任ある行動を確保する仕組みづくりが焦点となった。加えて、公正な移行の実現に向け、労働組合が政策決定過程に参画し、産業転換への戦略的な介入を行う重要性が共有された。

また、規約に基づき大会開催4カ月前までに提出された決議案、大会

期間中に提出された緊急決議が審議された結果、後記4決議が採択され、

グローバルな連帯と行動の意志が確認された。イスラエル・パレスチナ紛争の影響は、他のGUFの大会でも混乱を引き起こしていたが、インダストリアルは参加者に対して、互いに敬意を持って冷静に対応するよう求め、平和に関する決議が採択された。また、関税問題も決議委員会等で議論が白熱したが、最終的に調整が図られ引き続き議論を継続することとなり、貿易に関する決議が採択された。女性委員会提案のフェミニストに関する決議も採択された。

採択された決議・緊急決議…

- ①貿易に関する決議
- ②フェミニスト決議
- ③平和に関する決議
- ④緊急決議・リベリアのSEGAL労働者に対する攻撃を非難する

結語

対面開催としては9年ぶりとなった今大会は、労働組合がグローバルに連帯し、国境を越えて共通課題に取り組み意義をあらためて確認する機会となった。規約改正やアクション・プランの採択を通じて、インダストリアルは次の4年間に向けての確かな一歩を踏み出した。

金子インダストリアルオール副会長 (JCM議長) 挨拶要旨

アジアは長い歴史の中で、植民地支配、戦争、経済発展、そして急速なグローバル化という、大きな時代のうねりを経験してきました。また、民族・宗教・文化・言語が重層的に交錯しており、私たちは、こうした世界でも類を見ない複雑さと多様性の中で、尊厳ある仕事を求めて声を上げ、連帯を築いてきました。

今、世界の労働運動にとって、「多様性」「包摂性」「平等」は不可欠な価値となっており、まさにアジアはこの価値観の最前線に立っています。

今回、世界大会がアジア太平洋地域で初めて開催されたことは、急成長と課題が交錯するこの地域の声を国際運動に反映させ、よりバランスの取れた運動への進化を象徴するものです。先住民族の文化と移民社会が共存する、多様性と包摂性の象徴的なオーストラリアで開催される本大会が、全ての地域の労働者の声をつなぐ場となることを、心から期待しています。また、アジアの労働者も、世界の連帯の中で誇りを持ってその存在を示せるようにしたいと思います。

今、私たちの世界は「分断」と「対立」に満ちています。民主主義は各地で挑戦を



受け、労働者は、グローバル競争と搾取の圧力の中で分断されています。「分断」に勝つためには、「団結」しかありません。

だからこそ、今大会のテーマ“組織化で公正な未来を”は、私たちにとって希望であり、闘う理由でもあります。団結とは、異なる声や異なる立場を尊重し、共に立ち上がる力です。その力こそ、分断を乗り越え、公正な未来を切り拓く原動力になると、私は信じています。

ここから生まれる決意と連帯の力が、すべての労働者に公正で尊厳ある未来をもたらすことを確信しています。

会期中、イスラエル・パレスチナ問題に関しては、それぞれの国に加盟組織を擁する立場上、緊張感のある場面も見られた。しかし、立場や

背景の違いを越えて、「労働者の権利を守る」という共通の目的のもとに冷静な議論が行われ、組織としての一体性は維持された。

JCMには、主要な加盟組織として、アジア太平洋地域の各国・地域の労働組合と連携を深め、課題解決に向けた取り組みを着実に進めてい

くことが求められる。

規約全文を読みたい方は

<https://www.industriall-union.org/statutes>



アクションプラン全文を読みたい方は

<https://www.industriall-union.org/action-plan-2025-2029>



インダストリアル・グローバルユニオン クリスティアーネ・ベナー 新会長挨拶要旨



私の経歴

私の母はシングルマザーでした。生活が苦しく、できるだけ早く経済的に自立しよう、そして、世界をより良くするために人生を捧げようと思いました。まず製造系企業の社員として職業訓練を開始、その企業で労働組合の従業員代表委員に選出されました。その後アメリカ・シカゴの大学で労使関係を学び、ジェンダーが研究テーマでした。私は、男女の生活を改善するためにジェンダー不平等と闘って克服しなければならないと強く確信しています。アメリカでの経験は人種差別、特に黒人に対する構造的に根強い差別についての私の見解や感受性を方向付けました。

ドイツに帰国した後、学位を取得し、1997年に役員としてIGメタルに加わりました。2011年には執行委員会のメンバーになり、キャンペーンとターゲットグループ対策に従事し、女性や実習生、学生、ホワイトカラー労働者、移民労働者をIGメタルに勧誘し、その方々のために平等を促進する仕事をしました。

2015年から2023年までは副会長として、主にIGメタルの近代化、新規組合員の勧誘、平等方針の

促進に努めました。2023年にはIGメタル会長に選出され、インダストリアル・グローバルユニオンの欧州地域を代表する副会長に就任しました。

会長としての決意

私たちは今、非常に困難な時代に直面しています。多くの国々で右翼の過激派運動が高まっており、彼らは富裕層やメディア界の大物たち、新興財閥から資金提供を受けています。彼らの一部は、ソーシャルメディアを不正操作の道具とし、労働組合を弱体化させて少数者の権利を奪い、民主主義国家を弱体化させようとしています。私たちは断固としてこのような動きと闘わなければなりません。

私たちのビジョンは、連帯に基づく公正かつ持続可能な仕事の世界を実現し、労働者のニーズと権利が社会から注目を集めるようにすることです。それを達成するまでの道のりはまだ遠い状況にあります。しかし、私たちは戦闘態勢を整えています！組織化と能力開発を通じて労働組合の力を強化し、生産現場に強力な労働組合基盤を築くことが労働条件を改善するためには重要です。

私は皆さんとともに、多国籍企業のバリューチェーンにおける人権デュー・ディリジェンスの強化、結社の自由、自由な団体交渉ならびに労働組合員の参加を求めて闘いたい！

すべての人に価値がある。だからこそ、女性と平等、青年層とホワイトカラー労働者、不安定労働者の包摂に重点的に取り組む必要があるのです。

私たちは新しいビジョンを描き、新しい道を切り開く必要があります。皆様とともに、このすべてに取り組むたいと考えています。ご支援を心からお願いいたします。